

ゴイシジミ



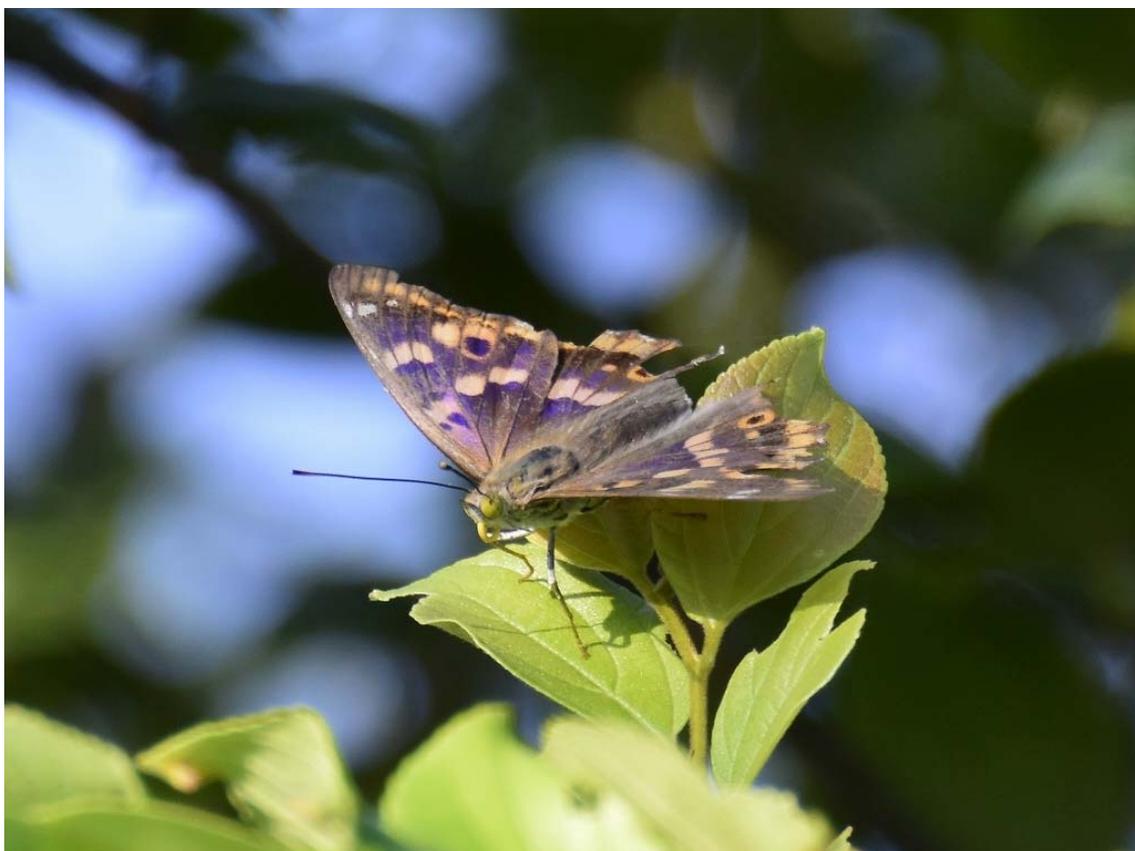
区分	宮崎県版レッドリスト: 準絶滅危惧
分布	北海道・本州・四国・九州のほか、佐渡島・隠岐諸島・淡路島・対馬・壱岐島・五島列島・天草群島・大隅(種子島、屋久島)に分布する。 ⁽³⁾
生態	平地～山地のタケ・ササ類が生育する林内や林道など、薄暗い環境に生息する。多化性で、暖地では5月上旬～11月頃まで発生を繰り返すが、特に夏～秋にかけて個体数が多い。純肉食性で、幼虫はタケ・ササ類に付くササコナフキツノアブラムシやタケノアブラムシなどを捕食し、成虫はこれらアブラムシの分泌物を吸汁する。 ⁽²⁾⁽³⁾

(1) 日本産蝶類標準図鑑、白水隆、2006

(2) フィールドガイド日本のチョウ、日本チョウ類保全協会、2012

(3) 日本昆虫目録 第7巻 第1号 鱗翅目(セセリチョウ上科-アゲハチョウ上科)、日本昆虫学会、2013

コムラサキ



区分	宮崎県版レッドリスト: 準絶滅危惧
分布	北海道・本州・四国・九州に分布する。 ⁽¹⁾
生態	主な生息地は河川敷に多く生育するヤナギ類の林であり、公園内樹木や街路樹として植えられたヤナギ類を利用することもある。幼虫はヤナギ類の葉っぱを食べて成長し、成虫は主にヤナギ類やクヌギ、コナラなどの樹液を吸汁する。なお、コリヤナギおよびイヌコリヤナギの葉っぱは幼虫の餌にはならない。 ^{(1) (2)}
配慮事項	河川における生息状況を把握した上で、伐採箇所を決定する、改変箇所へヤナギ類を植樹するなどの配慮が考えられる。 ⁽¹⁾

(1) 川の生物図典、財団法人 リバーフロント整備センター、1996

(2) フィールドガイド日本のチョウ、日本チョウ類保全協会、2012

コガタノゲンゴロウ



区分	環境省レッドリスト:絶滅危惧Ⅱ類 宮崎県版レッドリスト:準絶滅危惧
分布	本州・四国・九州のほか、南西諸島・小笠原諸島に分布する。 (1) (2)
生態	主に平地の水草の多い池沼、湿地や水田、休耕田、水たまり、水路などに生息する止水性のゲンゴロウ類。幼虫・成虫ともに一年中みられる。成虫の寿命は2~3年で、4~7月に水草に産卵し、幼虫は水生昆虫やオタマジャクシを捕食する。岸辺の土中で蛹になった後、約2ヵ月で成虫となる。成虫も肉食であるが、水草も食べる。(1) (2) (3)

(1) 改訂版 図説 日本のゲンゴロウ、森正人・北山昭、2002

(2) レッドデータブック 2014ー日本の絶滅のおそれのある野生生物ー 5 昆虫類、環境省、2015

(3) ゲンゴロウ・ガムシ・ミズスマシ ハンドブック、三田村敏正ほか、2017

ヤマトアシナガバチ



区分	環境省レッドリスト:情報不足
分布	本州・四国・九州のほか、対馬・大隅諸島に分布する。 ⁽³⁾
生態	平地や低山地に生息し、草本の葉の裏や樹木の細い枝、時には人家の軒下や壁にも営巣する。女王バチや働きバチ、オスバチで1つの巣を構成する社会性昆虫類で、5～9月頃までみられる。10月～翌春まで女王バチは越冬する。 ⁽¹⁾⁽²⁾⁽³⁾

(1) 日本の新社会性ハチ、高見澤今朝雄、2005

(2) レッドデータブック 2014ー日本の絶滅のおそれのある野生生物ー 5 昆虫類、環境省、2015

(3) 日本産有剣ハチ類図鑑、寺山守・須田博久、2016